

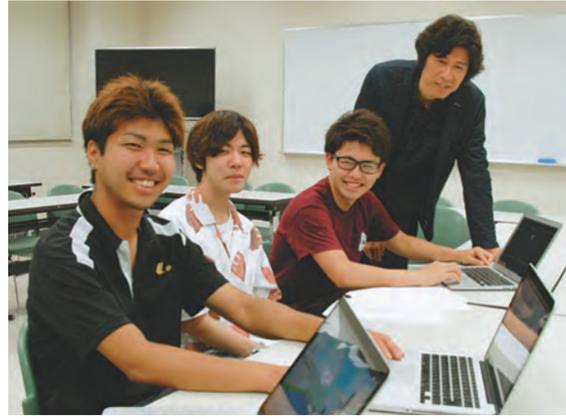
ネット情報 渡部プロジェクト

台湾で8月

ネットワーク情報学部 渡部健司プロジェクトの3年次生が、初参加したCG(コンピュータグラフィックス)アニメーションコンテストの国内予選を突破、8月に台湾で開催される本選に出場



作品「未来予知」の一場面



CGアニメ国内予選を突破した大川さん、高津戸さん、木原さん(左から)と渡部特任教授

CGアニメ世界大会へ

「ard」。台湾のIT企業が主催し、アジアを中心に大学や専門学校など100校以上約300チームが参加。教材としても使われている3DCGソフトを使い、与えられたお題に従って、48時間以内に作品を仕上げる。渡部健司特任教授は長年CGやVFX(視覚効果)などデジタル映像の最前線で制作に携わり、『ウルトラマン』シリーズのCGIプロデューサーなども務めた。本年度から特任教授に就任。プロジェクトでは映像制作について教え、春休み中から予選大会に向け準備してきた。学生12人は全員CG初心者。渡部特任教授は「ソフトの操作以上に、作品にどんなメッセージを込め、どうプロデュースするかが大事」とたたき込んだという。

5月末、都内で2日間にわたり開催された予選大会には、プロジェクト生全員が4チームに分かれて参加。当日発表された映像に興味をもつようになり、コンテストで認められたことで、さらには「夢」。高津戸さんらのお題は「夢」。高津戸さんらのお題は「夢」をテーマに、素材集めや編集を手分けしてこなし、高津戸さんは「ストーリーを考えるのが一番難しかった」と振り返る。慣れない環境やプレッシャーと戦いながら仕上げた2分10秒の作品は、日本代表2本のうちの1本に選ばれた。「入学当初はやりたかったが木原さん。だ前が開ける。仲間とやり遂げたことが自分の力になった。プロジェクトに入ってきたさまざまなことを教わり、コンテストで認められたことで、さらに映像に興味をもつようになった」と笑顔を見せる。本選には各国の予選を勝ち抜いた20組が参加する。大川さんは「クッス」と笑える作品が自分たち

MOS世界学生大会 金谷さん(法4)が入賞



表彰状を持つ金谷さん

パソコンソフトの利用(賞上位20人入り)を果した。 MOSはマイクロソフト・オフィス・スペシヤリスト(MOS)世界学生大会)大学・短大パワポイント部門で、金谷京さん(法4)が入賞8千人がエントリー。同

社製のワード、エクセル、パワポイントの3部門で正確さと速さを競う。「就職活動を控えて履歴書を書く資格がほしい」という金谷さん。3年次の12月に参考書を購入し、3部門の勉強を始めた。大学のレポートなどでエクセルとワードは使っていたが、パワポイントは触れる機会がなかった。まったくの独学で模擬試験を繰り返し、年明けには受験。併せてMOS世界学生大会にエントリーした。パワポイントの試験

では設問に従ってプレゼンテーション用のシートを仕上げていく。当日の結果発表で満点。模試では取れなかったので満点ほうれいしかなかった。主催者から入賞の知らせが届いたのは就職活動が本格化した4月。まったく予測していなかったのが、就活の励みになった。「就職後もプレゼンなど仕事に生かしていきたい」と話す。本学情報科学センターでは今年度から、MOS資格試験対策講座を開講する。

新入生もはつらつと



笑顔でタワーを作る「BLASTS」のメンバー

チアリーダーが公開演技

野球やアメフト、アイスホッケーなどのスポーツ応援のほか、競技者としてチアリーディングの大会でも活躍する全学応援団チアリーダー部「BLASTS」。6月13日、昼休みに生田キャンパス第一体育館で競技と演技を披露した。「1年次の新入部員が1人し

青衿祭 ライブ楽しむ



各県人会の会長らによるアトラクション

会、ロックバンド「忘れらんねえよ」によるゲストライブが行われた。約300人が来場し、会場は大いに盛り上がった。町田横太朗実行委員長(文4)は「2年次生を中心とした実行委員とともに半年間にわたって準備に取り組んできました。みんなの努力の結果、とてもいいイベントになり、満足しています」と話した。



26サークルが成果披露 黒門祭

文化系サークルが日ご50回黒門祭が6月24日から26日まで、生田キャンパスに、各県人会の会長らによるアトラクション、豪華景品が当たる抽選

ヒット曲の歌詞を表現する手話研究同好会... ンパスで開かれた。三曲研究会による「黒門祭演奏会」、中南米研究同好会による「ラテン喫茶HERMANA」、鉄道研究会による「てっけんフェスタ」など、計26の研究會・同好會が教室展示や研究報告會、演奏會などを行った。10号館では昨年発足した手話研究同好會が曲に合わせて歌詞を手話で表現する手話歌を披露。岡本真夜さんの『Tomorrow』の歌詞を手話で表現した。

神田キャンパスで 防災体験イベント



消火器を使った消火体験

地震や火災発生の際の応急救護などを学ぶ防災体験イベント(学生部主催)が6月24日、神田キャンパスで開催され、教職員や地域の方々など214人が参加した。参加者は、神田消防団や警視庁の協力により震度7の揺れや煙が充満した状態などを疑似体験、消火活動など非常時に適切に行動する方法を学んだ。「疑似体験」をした蕪城理子さん(法1)は「煙の中を歩いて避難するのは想像以上に大変です。心構えと身を守る方法を学ぶ防災教室が6月28

生田キャンパスで 防犯教室 実技も



腕を振りほどく方法の実技に取り組み参加者

不審者に遭遇した時の日、生田キャンパスで開かれた。学生、職員ら30人が参加。多摩警察署生活安全課員から防犯に関する基礎知識のほか痴漢防止のためのポイントを聞き、捕まれた腕を振りほどくなど護身術の手ほどきも受けた。同教室は、女性を狙った犯罪が増加傾向にあるため、防犯意識を高めてもらおうと、学生部が2013年から毎年行っている。